

平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立 第75次全国教研の分科会 三重で開催

第75次教育研究全国集会在、全体集会在1月16日(金)にオンラインで、各分科会在1月24日(土)から25日(日)までの2日間に対面で開催された。開催地の三重県では、四日市市・津市・鈴鹿市の各会場に分散して、合計25分科会で活発な討論が展開された。開催県の三重県教組が運営を担当した。

全体集会上では人権をテーマの記念講演

オンラインによる全体集会上では、梶原貴日教組中央執行委員長の主催者あいさつ・山門真三重県教組委員長の開催地教組あいさつに引き続き、山本正博書記長の基調報告があった。

メインの記念講演は、子どもの学び館代表取締役の福永宅司さんと、女装パフォーマーでエッセイストのブルボンヌさんによる「出あえて、よかった、すべてのいのちにかがやきを」と題するもので、社会の分断が進みつつある中、人権啓発の大切を考えさせられるタイムリーな内容だった。

25会場に分かれて開催された分科会

各地の会場で開催された分科会には、私大ユニオンからは次の4人が共同研究者となっている。

第13分科会 人権教育 池田賢市

第14分科会 インクルーシブ教育 田口康明

第18分科会 平和教育 中條克俊

第20分科会 高等教育・進路保障等 平井聖児

今期より、第20分科会の共同研究者の1人は、私大ユニオン副委員長の佐野通夫さんから、前ものづくり大教職組委員長の平井聖児さんに交代した。

私大ユニオンからのレポートは、第20分科会における吉川健治中執の「教育の本質追求のための真っ当な働き方」(「私大ユニオン・ニュース」第



134号に掲載)で、当日は佐野通夫副委員長が代読し、最後に自身の見解を加筆したものである。

分科会初日の1月24日(土)の夕刻には、四日市市内で日私教による意見交換会が開催された。村田茂委員長・山本和彦書記次長(私大ユニオン特別中執)などのメンバーに、私大ユニオンからは亀山亜土委員長などが参加した。

大学教員の共同研究者の加入促進を!

私大ユニオンは、2018年度に個人を対象とした賛助会員制度(年会費3,000円)を導入した。

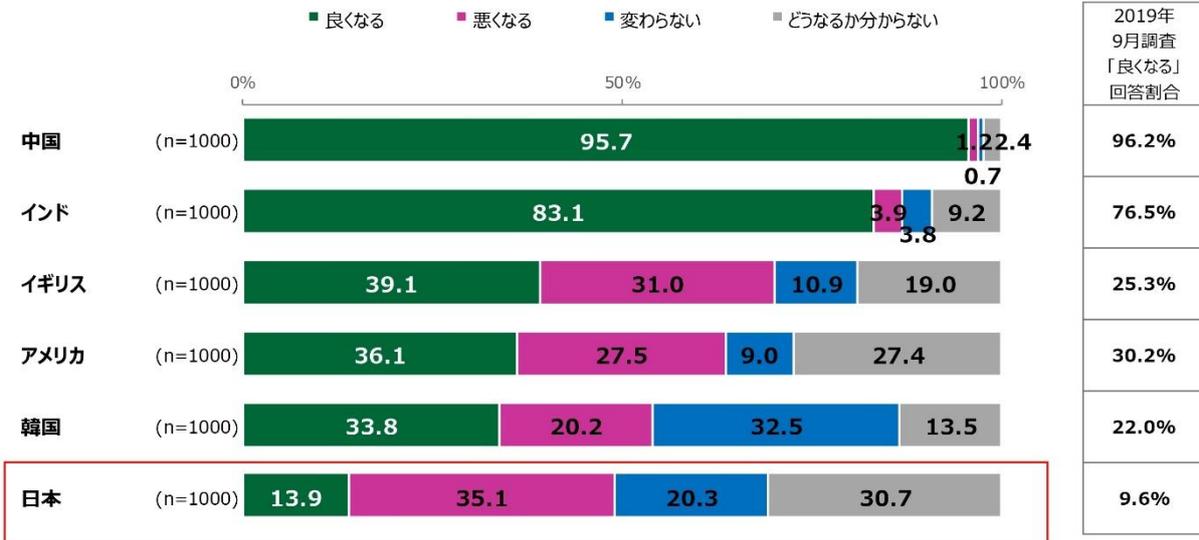
国公立大に在職する共同研究者には、賛助会員制度を周知すると同時に、私大の共同研究者には私大ユニオンへの個人加入を積極的に呼びかけて、日教組私学の運動の共有化を図りたい。

自分の国の将来について

自分の国の将来について、日本は「良くなる」が13.9%と、他の国に差をつけて6カ国中最下位となった。また、「悪くなる」が35.1%、「どうなるか分からない」が30.7%で、それぞれ6カ国中最も高いスコア。「良くなる」という回答が最も多いのは中国（95.7%）で、次いでインド（83.1%）が多い。

Q 自分の国の将来についてどう思っていますか。（各国n=1000）

※「良くなる」回答率が高い順に掲載



社会課題解決に関する若者の意識(諸外国比較)

若者の自身と社会の関わり意識について、以下の全ての項目で日本は6カ国中最下位となった。特に「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」がそれぞれ3割に満たず、他の国に差をつけて低い。

Q 以下の項目に同意しますか。（各国n=1000）

※「はい」回答率を掲載



(出典) 日本財団「18歳意識調査第46回 -社会や国に対する意識(6カ国調査)-」(令和4年3月)